まちの話題

味坂ポピー祭り

味坂地域の活性化を図ろうと味坂21の会（末次晴幸会長、会員42人）が昨年の11月から地元の小・中学生と一緒に種まきをするなどポピーの花づくりに取り組んできました。

見頃を迎えた5月12日・13日、光行に広がるポピー園（約２万７０００㎡）で「第8回味坂ポピー祭り」が開催され、市内外から訪れた来場者は約１００万本のポピーに感心し、初夏の一日を楽しんでいました。

また、会には市内出身で筑紫野市在住の人から故郷に対する思い（毎年、里帰りを楽しみにしていることなど）がつづられた手紙が届くなど、活動に対する理解も広がっています。

このような活動状況が評価され、今年度は、財団法人地域社会振興財団が宝くじを財源として「財団法人地域活性化センター」に交付して行われる「長寿社会づくりソフト事業」に採択されています。

伊藤多喜雄プロデュース「唄さがしの旅」in小郡

5月11日、「民謡界」の枠にとらわれず、「民謡」の復活へ向けて、独自の活動を切り開いてきた伊藤多喜雄さんを迎えて開催された「『唄さがしの旅』.in小郡」。

1月28日に小郡小学校の体育館で開かれた「くすのきフェスタ」での感動をもう一度と、実行委員会が呼びかけて実現したもので、文化会館につめかけた観客は、唄に合わせて手拍子を打ったり、聞きなれた唄を口ずさむなど会場が一体となりました。

また、三井高校生のピアノ演奏やスポーツ健康コースの生徒による力強い「ソーラン節」と伊藤さんのコラボレーションもあり、心温まるコンサートとなりました。

随想 59

双子の出産　山内良枝さん（みくに野団地）

わが家の３人の娘は長女１０歳、次女と三女は７歳の双子です。

７年前、双子の妊娠が分かった時、ただただ嬉しさでいっぱいになりました。先生から「今はこの位の大きさですよ」と、キューピーの人形を二ついただき、掌にのるほどのその人形を見て、改めて愛情と実感がわきました。

しかし、７か月目に入った頃、出産のリスクを考え、総合病院への転院が決まり、その直後に主治医から早産予防のための頸管縫縮術を勧められました。

手術は１週間の入院を要するもので、まだ２歳だった長女と離れるのはとても不安でしたが、双子の安全のため、長女は熊本の主人の実家へ預かって頂きました。

７年前の６月２９日、大雨の中、入院しました。一般病棟が満室のため、ＩＣＵ病棟へ入り、重病患者のような待遇のうちに点滴を付けられ、ずっと腕に針を刺したままの生活になりました。

１週間の決心の入院も「手術はやはり危険・・・」と、結果的には２か月もの入院生活になりました（とほほ・・・）。

数日後、一般病棟に移ることができましたが、状況は変わらず、点滴や自己血の補充、そして行動の束縛・・・。

週末に長女を連れて来てくれる主人や両親、友人が心の支えになり、今迄、一日中娘と過ごせた幸せを痛感しました。

看護師さんたちが点滴の袋に応援のことばや絵を書いてくれる励ましに、私は「標準体重で産みたい」との思いで毎日を過ごし、やっと３８週に入った時「もういつ産んでも良いよ！」と、退院が許可されました。

つかの間の解放感！大きなお腹を抱えて帰省し、両親には心配をかけました。

その翌週、３８週と５日で再入院し、普通分娩で、午後６時１分に次女を３０３６ｇ、続いて１３分に三女を２６４４ｇで出産し、安産に恵まれました。

両手に抱いた２人の小さな赤ちゃんが、無事、健康に生まれてきてくれたことにとても安堵しました。

たくさんの方々に支えていただいたあの２か月間、感謝の気持ちでいっぱいです。

そして今、娘たちは元気に三国小学校に通っています。

◇◇◇

次号（８月号）は、西村栄子さん（横隈）にリレーされます。